

飲食動詞と場所補語 Les verbes désignant l'acte de manger et de boire et les compléments locatifs

平塚 徹 (HIRATSUKA Tohru)

Dans les phrases du type “Il a bu du vin dans un verre de cristal.”, le syntagme prépositionnel est souvent considéré comme désignant la source du mouvement de l'aliment ou de la boisson. Mais, il y a une théorie selon laquelle ce syntagme prépositionnel ne désignerait pas un lieu proprement dit, mais aurait un statut intermédiaire entre le “lieu” et le “moyen”. Le présent article soutient qu'il désigne le lieu impliqué dans l'acte, la préposition indiquant la relation qu'entretient l'agent avec ce lieu. Ainsi, on dit “Il a bu du vin à la bouteille.” et non pas “* Il a bu du vin dans la bouteille.”, parce que, dans ce cas, l'agent ne fait que toucher la bouteille avec sa bouche. Pour dire “boire dans un récipient”, l'agent doit introduire dans ce récipient, soit une partie de son corps, comme la lèvre supérieure, soit un outil, comme une paille.

キーワード：飲食動詞(verbes désignant l'acte de manger et de boire), 前置詞 (préposition), 場所補語(complément locatif), 行為者(agent), 容器 (récipient).

1. はじめに

以下のような飲食を表す動詞を伴う文に現れる前置詞 *dans* は、しばしば、起点を表すものであると説明されている¹⁾²⁾.

- (1) a. Il a mangé du riz nature *dans un bol*.
b. Il a bu du vin rouge *dans un verre de cristal*.

このような前置詞 *dans* の用法は、動詞が飲食を表すものであれば、目的語を伴っていないだけでも可能であるし、更には、他動詞でなくても可能である³⁾.

- (2) a. Il a mangé *dans un bol*.
b. Il a bu *dans un verre de cristal*.
c. Il s'est servi *dans { l'assiette / le verre } de son voisin*.

d. Il a { déjeuné / diné } dans de la vaisselle de Sèvres.

ところが、山田(1998b)は、(3)の前置詞句 dans un verre は純然たる「場所」を表していないと述べている。

(3) Il boit du whisky dans un verre. (山田, 1998b, p.81)

その主な論拠としては、問題の前置詞句が場所について尋ねる疑問文の答には使われないことや代名詞 y で受け直せないことが挙げられている。

(4) Où boit-il du whisky ? - * Dans un verre. (idem, p.82)

(5) a. Il boit du whisky dans un verre. (idem, p.83)

b. ?* Il y boit du whisky. (ibid.)

山田は、このような前置詞句は、「場所」と「道具」の中間領域に位置するものと結論づけている。

本稿では、この前置詞句が典型的な場所表現でないことを認めつつも、やはり場所を表していること、そして、これらの場所は移動の起点ではなく、動詞が表す動作に関与する場所であることを示す。

2. 前置詞句は道具ではなく場所を表している

2.1. 操作性の有無

上述の通り、山田(1998b)は、boire dans un verre の dans un verre は「場所」と「道具」の中間領域に位置すると主張しているが、実際の用例を観察すると道具とは言い難いものが存在している。例えば、動物が容器から水を飲んでいる場合、容器を道具として操作していると言うよりは、その容器の中に単に口を突っ込んでいるだけである。

(6) — Oh ! si ! monsieur ! dit-elle, le cheval a bu, il a bu dans le seau, plein le seau, et même que c'est moi qui lui ai porté à boire, et je lui ai parlé. (HUGO, V., *Les Misérables*, in DISCOTEXT 1)

(7) Pour parfaire le tout, on avait vu les chevaux hérétiques boire dans les bénitiers. (THARAUD, J. et J., *La Tragédie de Ravillac*, in TLFi, “Parfaire”)

動詞 manger についても同じである。

(8) On voyait dans les écuries, par le dessus des portes ouvertes, de gros chevaux de labour qui mangeaient tranquillement dans des râteliers neufs. (FLAUBERT, G., *Madame Bovary*, in DISCOTEXT 1)

(9) Les poules apprivoisées, les colombes entouraient sans cesse ma mère, et venaient manger dans sa main. (MICHELET, J., *L'Oiseau*, in DISCOTEXT 1)

また、人間の飲食であっても、道具とは捉えにくい例がある。

- (10) *Écuelle dans laquelle plusieurs matelots ou soldats mangeaient ensemble.* (PR, “Gamelle”)

これは、gamelleという語の定義であるが、この容器を道具として操作して食べると言うよりは、その中から食物を取って食べていると言える。

- (11) *Dormant dehors, mangeant dans les poubelles, ils survivent en acceptant les tâches les plus humiliantes et les plus dangereuses.* (Le Monde 16/02/2001)

この場合、ゴミ箱は、食べるために操作する道具ではなく、食物のある場所である。

よって、前置詞 *dans* の使用は、容器を操作するかしらないかとは関係なく、むしろ飲食物が容器の中にあることに関係していると言える。このことは、飲食動詞とともに用いられた *dans* が表しているのは、道具ではなく、場所であるという考え方を支持する。

2.2. 等位接続

(12a) の前置詞句が場所を表しているのは明らかだが、(12b) の前置詞句は山田に従えば「場所」と「道具」の中間領域に位置することになる。

- (12) a. *En France, on met le vin dans un verre.*
b. *En France, on boit le vin dans un verre.*

ところが、前置詞句はそのままで両方の文の動詞を等位接続することが可能である。

- (13) *En France, on met et on boit le vin dans un verre.*

この事実、前置詞句 *dans un verre* が、動詞 *mettre* に対しても、動詞 *boire* に対しても、同じ役割を果たしていることを示している。これより、(12b) においても、前置詞句は場所を表していると考えることができる。

(13) は作例であるが、以下のような実例もある。

- (14) *Petit récipient rond, creux et très évasé, dans lequel on met et mange de la nourriture, notamment des aliments liquides.* (TLFi, “Écuelle”)

以上の事実、飲食を表す動詞とともに用いられた前置詞 *dans* は場所補語であるという見方を支持するものである。

3. 前置詞句は起点を表していない

3.1. 場所表現の多様性

従来の辞書や文法書では、前置詞 *dans* にそもそも起点の意味があるかのような記述が見受けられる。しかし、*dans* を含む前置詞句の他にも、同じような使い方をする場所表現が存在している。もし、*dans* に起点の意味があると記述するとすると、その他の場所表現にも、いちいち同じ記述を繰り返さなければならなくなる。

- (A) 前置詞 *sur* が用いられている例

- (15) Elle se tint devant l'abbé Mouret, en commençant à manger *sur le bout de la cuiller*, avec précaution. (ZOLA, É., *La Faute de l'abbé Mouret*, in *DISCOTEXT 1*)
- (B) 前置詞 *à* が用いられている例
- (16) Des paysans, avant de manger *à la gamelle*, font tous le signe de la croix. (MICHELET, J., *Journal*, in *DISCOTEXT 1*)
- (17) On vendangea côte à côte, mangeant *à la même grappe*, goûtant dans la même assiette et profitant de la familiarité des rondes pour se servir la main. (THEURIET, A., *Le Mariage de Gérard*, in *DISCOTEXT 1*)
- (C) 副詞 *dedans* が用いられている例
- (18) Mon verre est petit, mais je ne veux pas que vous buviez *dedans*. (RENARD, J., *Journal*, in *DISCOTEXT 1*)
- (D) 関係代名詞 *où* が用いられている例
- (19) plus d'une femme dans la ville avait une sandale ou une ceinture de lui, une coupe *où* il avait bu, même les noyaux des fruits qu'il avait mangés. (LOUÏS, P., *Aphrodite*, in *DISCOTEXT 1*)
- (20) Gravement on nous enlève, à Schwob et à moi, des assiettes *où* nous n'avons pas mangé. (RENARD, J., *Journal*, in *DISCOTEXT 1*)
- (E) 代名詞 *y* が用いられている例⁵⁾
- (21) elle inclinait doucement son vase à mesure que j'y buvais. (DU CAMP, M., *Le Nil, Égypte et Nubie*, in *DISCOTEXT 1*)
- (22) Quant aux trois gobelets, remplis jusqu'aux bords, chacun *y* boit de même, à son tour et avec économie. (FROMENTIN, E., *Un Été dans le Sahara*, in *DISCOTEXT 1*)

これらの用例においては、場所補語は飲食物のある場所と一致しており、起点を表していると記述しても良さそうに思われるかもしれない。しかし、そのような記述をそれぞれの場所表現に繰り返すのは、重要な一般化を逃すことになる。むしろ、場所表現であれば、原則的に、「飲食動詞とともに用いられると、飲食物のある場所を表すことができる」と記述する方が良いと考えられる⁶⁾。

3.2. 前置詞の使い分け

これまで見てきた例では、飲食動詞と共に起る場所補語は、食物の移動の起点と一致していた。そうすると、問題の場所補語は、そもそも食物のある場所を指示しているだけだという考え方も可能だと思われるかもしれない。例えば、グラスからワインを飲む場合、ワインの移動の経路は次のように表せる⁷⁾。

- (23) [FROM [IN [GLASS]]]

このうち [IN [GLASS]] の部分のみが場所補語で表されていると考えるのである⁸⁾。

しかし、このような考え方は成り立たない。

例えば、ワインをボトルからラッパ飲みする場合を考えると、(24)のように、前置詞は、*dans* ではなく、*à* が使用される⁹⁾。

(24) a. Il a bu du vin { *à* / * *dans* } la bouteille.

b. Il a bu { *à* / * *dans* } la bouteille.

このことは、場所補語が食物の移動の起点だとする考え方と合致しない。なぜなら、ワインはボトルの中にあっただけであり、その位置関係は、(25)からも分かるとおり、*dans* で表されて、*à* では表されないからである¹⁰⁾。

(25) Le vin est { * *à* / *dans* } la bouteille.

これは、ボトルからラッパ飲みする場合だけでない。

(26) a. Il a bu (du lait) { *au* / * *dans le* } biberon.

b. Il a bu (du coca) { *à* / * *dans* } la canette.

c. Il a bu (de l'eau) { *à* / ? *dans* } la gourde.

これらの例に共通するのは、容器の出入り口が小さく、その出入り口に唇を接して液体を飲むということである¹¹⁾。これに対して、前置詞 *dans* が使用される場合は、行為者が多かれ少なかれ何らかの形で、容器の内部に働きかけていると捉えることができるのである。例えば、(1a) や (2a) (以下にまとめて再掲) では、行為者は、箸などで茶碗の中の御飯を取り出すのである。

(27) Il a mangé (du riz nature) *dans un bol*.

また、(1b) や (2b) (以下にまとめて再掲) では、グラスの中の液体を飲む場合、上唇が容器の中に入り込んでいると考えることができる。

(28) Il a bu (du vin rouge) *dans un verre de cristal*.

更に、通常なら前置詞 *à* が使われるはずのボトルや缶の場合でも、ストローを使用して飲む場合には、前置詞 *dans* が可能になる。

(29) a. Il a bu *dans la bouteille* { avec une paille / à la paille }.

b. Il a bu *dans la canette* { avec une paille / à la paille }.

つまり、前置詞 *dans* の使用が可能になるのは、身体の一部であれ、道具であれ、それを容器に入れており、容器の内部への働きかけがあると捉えることができる場合である。それに対して、容器の内部への働きかけはなくて、その出入り口への接触にとどまる場合には、前置詞 *à* を使用するのである¹²⁾。

以上の *dans* と *à* の使い分けから、問題の前置詞句は、飲食物の移動の起点を表すのではなく、行為者が飲食行為において飲食物の入っている容器にどのように関わっているかを表しているものと考えられる。

動詞 *manger*, *déjeuner*, *dîner* とともに使われる前置詞としては *sur* もあるが、以下の文では、食物が置かれたものの表面に向かって行為をしていると捉えることができる。

- (30) Elle se tint devant l'abbé Mouret, en commençant à manger *sur le bout de la cuiller*, avec précaution. (ZOLA, É., *La Faute de l'abbé Mouret*, in *DISCOTEXT 1*)
- (31) Les fleuristes déjeunaient *sur leurs genoux*, pour ne pas salir l'établi. (ZOLA, É., *L'Assommoir*, in *DISCOTEXT 1*)
- (32) Irène mange *sur une table d'ébène*, sans nappe. (BATAILLE, H., *Maman Colibri*, in *DISCOTEXT 1*)

このような場合も含めて考えると、前置詞句は、行為者が飲食行為において飲食物のある場所にどのように関わっているかを表していると言える。

動詞 *boire* の場合には、飲み物は通常容器に入っているので、前置詞 *sur* が使われる場面は少ないと思われる。この場合、何かの表面にある液体を飲むことになる。

- (33) Il buvait *sur elle* [la joue de sa mère] une amère rosée, versée perle à perle (COLETTE, S. G., *Gigi*, in *TLFi*, "Perle")

しかし、次の例では状況が少し異なっている。

- (34) "Moi!" s'écria Mila. Elle feignit de porter la liqueur à sa bouche, tandis que le prêtre, tournant la coupe, cherchoit à boire *sur le bord que les lèvres de Mila avoient touché*. (CHATEAUBRIAND, F.-R., *Les Natchez*, in *B.A.S.I.L.E.*)

ここでは、前置詞句は、液体の移動の起点ではなく、液体を飲むために唇を接触する場所である¹⁹⁾。つまり、前置詞句が表しているのは、飲食行為において行為者が働きかける場所がある場合、その場所にどのように関わっているかなのである。

4. 英語との比較

本稿で扱った飲食動詞と共に使われる場所補語は、その英訳と比較するときわめて特徴的であり、その点でも言及されてきた。

- (35) a. manger (*dans une assiette / dans un bol*)
 b. to eat {{*from / off*} a plate / out of a bowl} (OH, p.491)
- (36) a. boire *dans un* {verre / bol}
 b. to drink *out of a* {glass / bowl} (OH, p.93)

この対比も、問題の場所補語が起点を表すという考え方を支持していたが、本稿での論証によりその考え方は成り立たない。

そうすると、フランス語と英語の違いは、そもそも、どこにあるのであろうか。ここで、英語で起点を表す前置詞 *from / off / out of* が使われている理由は、飲食行為における飲食物の移動に着目して、その経路を言語化しているからと考えられる。それに対して、フランス語では、飲食物と場所との関係でなく、行為者と場所との関係を言語化しているのである。

ところで、英語では、行為者が働きかけた対象が変化した結果を明示する結果構文が比較的良好に見受けられる。

(37) a. The crow has picked the skull empty. (BOUSCAREN, 1991, p.115)

b. He pulled his tie undone. (*ibid.*)

しかし、フランス語では、同じ事態を表すのに、異なる構文を用いる。

(38) a. Le corbeau a évidé le crâne à coups de bec. (*ibid.*)

b. Il a défait le nœud de sa cravate en tirant dessus. (*ibid.*)

また、英語では、他動詞が対象の移動を含意しない場合でも、対象の移動の経路を明示する前置詞句を加えることが可能である。

(39) a. Peter hit the ball to the other end of the pitch. (JONES, 1996, p.394)

b. John shook the dice onto the table. (*ibid.*)

しかし、これはフランス語では不可能である。

(40) a. * Pierre a tapé le ballon à l'autre bout du terrain. (*ibid.*)

b. * Jean a secoué les dés sur la table. (*ibid.*)

以上のことは、英語では、行為者が対象に働きかけて、その対象が移動したり変化したりするという、因果関係の線条的な流れをそのまま言語化する傾向があるのに対して、フランス語はその傾向が弱いことを示唆している。これは言い換えれば、LANGACKER (1990) の action chain model や CROFT (1991) の causal chain のような事態認知モデルが、英語においては優勢だが、フランス語においてはそうではないということを示唆していると考えられる。この考え方は、VINAY & DARBELNET (1995) の以下の観察とも符合する。

(41) In the description of reality English normally follows a natural order, like the temporal sequence of an action film. Even in the domain of concrete expression, French does not necessarily follow the order of our sensations. (VINAY & DARBELNET, 1995, p.103)

本稿で扱った構文を含む (35) や (36) の対比も、これと軌を一にするものと予想できる。この点については、今後、さらに解明したい。

5. まとめ

“Il a bu du vin dans un verre de cristal.” のような文における前置詞句は、起点を表すものでもなければ、「道具」と「場所」の中間領域に位置するものでもなく、むしろ飲食行為に関与する場所を表しており、前置詞は行為者がその場所にどのように関わっているかを表しているのである。これは、因果関係の線条的な流れをそのまま言語化する傾向の強い英語とは異なるフランス語の特徴の表れの一つとして捉えることができる。

(京都産業大学)

[注]

- 1) 起点がdeではなくdansのような前置詞で表されるとされているのは、飲食を表す動詞の場合に限らない。例えば、GUILLET & LECLÈRE (1992, pp.75-78, pp.169-170), JONES (1996, pp.399-400), 朝倉 (2002, p.155) を参照せよ。
- 2) GUILLET & LECLÈRE (1992, pp.350-355) を参照すると、起点を表すのにde以外の前置詞を取る動詞で飲食を表すものとしては、以下のものがある。aspérer, bâfrer, becqueter, biberonner, boire, bouffer, boulotter, brouter, déguster, écluser, goinfrer, goûter, grignoter, lamper, laper, licher, manger, morfaler, paitre, picoler, picorer, picoter, pinter, pomper, savourer, siffler, siroter, téter, tortiller, tortorer。
- 3) このことから、問題の前置詞句が目的語名詞の補語であるという考えは退けられる。
- 4) 山田(1998a)も参照。
- 5) (5)で見た通り、山田(1998b)は、問題の前置詞句を代名詞yで受けることができないと述べている。しかし(21)や(22)の実例が存在することから、yで受けることが全く不可能だとは言えない。(5b)が不自然なのは、何らかの語用論的要因によるものであろう。
- 6) (4)で見た通り、山田(1998b)は前置詞dansが場所について尋ねる疑問文の答には使われないと述べている。しかし、これを許容するネイティブスピーカーも存在する。また、以下のようにすると許容度の向上も見られる。
 - (i) *OK Où est-ce qu'il a bu, dans ce verre-ci ou dans ce verre-là ?
 - (ii) *OK Où est-ce qu'il a mangé, dans cette assiette-ci ou dans cette assiette-là ?
 - (iii) Où le cheval boit-il de l'eau ? – *OK Dans le seuu.
 このことから、(4)の許容度の低さは、oùやdansの字義的な意味に基づく意味論的な要因によるものではなく、むしろ語用論的な要因によるものではないかと考えられる。
- 7) 経路の表示については、JACKENDOFF

- (1983, pp.161-170)や田中・松本(1997, pp.128-129)を参照されたい。
- 8) この場合、FROMは動詞に「語彙化」あるいは「包入」されていることになるであろう。「語彙化」や「包入」については、TALMY(1985)や田中・松本(1997, p.130)を参照されたい。
 - 9) boire à la bouteilleは定型表現であると思われるかもしれない。しかし、この表現に出てくる限定辞が定冠詞に限られないことを見ると、定型表現ではないと言える。
 - (i) Il a bu (du vin) à {cette / une} bouteille.
 - 10) ボトルの中は、dans la bouteilleだけでなく、en bouteilleでも表すことができる。
 - (i) Le vin est en bouteille.
 そこで、en bouteilleを動詞boireと使うと以下ようになる。
 - (ii) Il a bu du vin en bouteille.
 - (iii) *Il a bu en bouteille.
 (ii)が容認されているが、これは、vin en bouteilleで「ボトル入りのワイン」を意味しているためである。よって、いずれにしても、動詞boireとともに、起点としてボトルの中を表す場所表現を使うことはできない。
 - 11) canetteには、「小瓶」と「缶」という意味があるが、いずれにしても、入り口は狭く、dansの容認度は低い。
 - 12) 容器の内部への働きかけがあると考えることができる場合でも、前置詞àの使用が必ずしも排除されるわけではないと思われる。例えば、(16)では前置詞àが使われているが、容器gamelleの内部への働きかけがあると考えることもできる(実際、gamelleの定義である(10)では前置詞dansが使われている)。しかし、おそらく、この例文では、そのような容器の構造は捨象されてしまっているのであろう。
 - 13) ラッパ³飲みすることをboire au goulotとも言うが、この表現に含まれるgoulot(ボトルの首の部分)も、飲み物のあった場所ではなく、それを飲むために口をつける場所と考える方がよいだろう。

[資料出典]

- B.A.S.I.L.E. = *Base Internationale de Lettres Électroniques du Moyen Age au XX^e siècle* (2000), Paris, Champion Électronique.
Discotext 1 (1992), Paris, Hachette.
OH = *The Oxford-Hachette French Dictionary* (1994), Oxford, Oxford University Press.
PR = *Le nouveau petit Robert* (1993), Paris, Dictionnaires Le Robert.
TLFi = *Le Trésor de la Langue Française informatisé*, <http://atilf.atilf.fr/>.

[参考文献]

- 朝倉季雄 (2002) 『新フランス文法事典』東京、白水社。
BOUSCAREN, J. (1991), *Linguistique anglaise. Initiation à une grammaire de l'énonciation*, Paris, Ophrys.
CROFT, W. (1991), *Syntactic Categories and Grammatical Relations*, Chicago, The University of Chicago Press.
GUILLET, A. & C. LECLÈRE (1992), *La structure des phrases simples en français. Constructions transitives locatives*, Genève, Droz.
JACKENDOFF, R. (1983), *Semantics and Cognition*, Cambridge, The MIT Press.
JONES, M. A. (1996), *Foundations of French Syntax*, Cambridge, Cambridge University Press.
LANGACKER, R. W. (1990), *Concept, Image, and Symbol*, Berlin, Mouton de Gruyter.
TALMY, L. (1985), "Lexicalization Patterns: Semantic Structure in Lexical Forms", T. Shopen (ed) *Language Typology and Syntactic Description. Grammatical Categories and the Lexicon*, Cambridge, Cambridge University Press, 57-149.
田中茂範、松本曜 (1997) 『空間と移動の表現』東京、研究社出版。
VINAY, J.-P. & J. DARBELNET (1995), *Comparative Stylistics of French and English*, translated and edited by J. C. SAGER & M.-J. HAMEL, Amsterdam, John Benjamins (J.-P. VINAY & J. DARBELNET (1958) *Stylistique comparée du français et de l'anglais*, Paris, Didier).
山田博志 (1998a) 「場所の状況補語について—疑問詞 où との対応関係—」東京外国語大学グループ≪セメイオン≫『フランス語を考える—フランス語学の諸問題Ⅱ』東京、三修社、134-144。
— (1998b) 「フランス語にみる「場所」と「道具」の間」鷲尾龍一編『言語の普遍性と個性に関する記述的・理論的総合研究』(平成7年度～平成9年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)(筑波大学現代語・現代文化学系)、81-90。